

平成 26 年 12 月 16 日

秩父市議会議長 小 櫃 市 郎 様

文教福祉委員長 木 村 隆 彦

文教福祉委員会行政視察報告書

1 期 日 平成 26 年 10 月 1 日 (水) ～3 日 (金)

2 視察先 鳥取県、島根県出雲市、広島県尾道市

3 参加者	委員長 木村 隆彦	副委員長 福井 貴代
	委員 赤岩 秀文	委員 金崎 昌之
	委員 落合 芳樹	委員 出浦 章恵
	委員 五野上茂次	

4 視察目的

鳥取県 「あいサポート運動について」

○ 県の概要

鳥取県は、中国地方の日本海側いわゆる山陰地方の東側を占め、東は兵庫県、西は島根県、南は中国山地を挟んで岡山県・広島県に隣接し、青く澄み渡る日本海や緑豊かな山々など豊かな自然に囲まれ、西日本有数の豪雪地帯でもあります。こうした環境の中で、二十世紀梨をはじめとする数々の農産物が生産され、新鮮な海の幸も水揚げされています。自然との共生が氷温技術など独自の新技术を生み、付加価値の高い産業を支えています。そして文化の香り高い風土の中で、新しい時代を担う人材が育っています。全国 47 都道府県中、面積は 41 番目に小さく、人口および市の数は最も少ない県となっています。県庁所在地は県東部の鳥取市。

○ 事業の概要

「あいサポート運動について」

あいサポート運動とは、誰もが障がいの特性、障がいのある方が困っていること、障がいのある方への必要な配慮などを理解して、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮などを実践することで、障がいのある方が暮らしやすい社



会をみなさんと一緒につくっていくことを目的とした運動で、平成21年11月に鳥取県で始まりました。

～まず知ることから始めましょう。それが共に暮らすことへの第一歩になるのです～

島根県出雲市 「認知症対策について」

*回想法

*認知症カフェ

○ 市の概要

島根県出雲市は島根県の東部に位置し、北部は国引き神話で知られる島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されています。出雲平野は、中国山地に源を発する斐伊川と神戸川の二大河川により形成された沖積平野で、斐伊川は平野の中央部を東進して宍道湖に注ぎ、神戸川は西進して日本海に注いでいます。日本海に面する島根半島の北及び西岸はリアス式海岸が展開しており、海・山・平野・川・湖と多彩な地勢を有しています。水と緑の自然が豊かなまちであり、ぶどう・柿・いちじく・出雲そば・島根ワイン・出西しょうがなどの特産品が有名です。

○ 事業の概要

「認知症対策について」

認知症は、高齢化とともに増えています。85歳以上では4人に1人の割合でその症状があると言われており、現在170万人と言われている認知症の患者数が今後20年で倍増することが予想されています。出雲市では認知症になっても地域で安心して暮らし続けるために、認知症を正しく理解していただくための啓発と早期対応に取り組んでいます。

「認知症カフェについて」

「オレンジカフェいずも」は、認知症の本人と家族、専門職、ボランティアなどの市民が気軽に集い、おしゃべりをしたり、楽しみを分け合ったり、誰でも参加できる憩い場です。出入りは自由です。ゆっくりコーヒーでも飲みながら、みなさんの交流の場として利用できます。10月から毎月2回程度委託により市内商業施設に開設します。



広島県尾道市 「地域包括ケアについて」

○ 市の概要

自然の良港を持つ尾道は、平安時代の嘉応元年（1169年）、備後大田荘（後、高野山領）公認の船津倉敷地、荘園米の積み出し港となって以来、対明貿易船や北前船、内海航行船の寄港地として、中世・近世を通じて繁栄をとげました。港町・商都としての発展は各時

代に豪商を生み、多くの神社仏閣の寄進造営が行われました。海を望む階段や坂道、路地越しに見える尾道水道、点在する寺院など歴史を凝縮した景観に魅かれ、この地で「暗夜行路」の草稿を書いた志賀直哉、尾道の女学校に通った「放浪記」作者の林芙美子、この地をこよなく愛し描き続けた小林和作をはじめ、多くの文人墨客が足跡を刻みました。また、近年では数々の映像作品の舞台となり映画のまちとしても有名です。

明治31年(1898年)、県内では広島市に次いで2番目に市制を施行し、周辺市町村との合併を経ながら市域を拡大して、緑豊かな北部丘陵地域から尾道水道周辺地域を経て独特の多島美を有する瀬戸内海地域に至る、多彩な資源を有するまちになりました。

歴史と文化に溢れる島々を結び、全長約70kmの海の道をサイクリングで満喫できるしまなみ海道をはじめとする新たな魅力と歴史・伝統に育まれた資源を活かし、他にはない魅力的な価値を持つまちづくりを推進しています。

瀬戸内のほぼ中央に位置し、山陽自動車道や瀬戸内しまなみ海道に加え、平成26年度に全線開通予定の中国横断自動車道尾道松江線により、広域拠点としての機能は高まりつつあり、まさに「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待される都市です。

○ 事業の概要

「地域包括ケア尾道方式」

約15万人の市民が生活する広島県尾道市は、65歳以上高齢者が総人口の30%を超えており、従来から高齢者の割合が高い地域となっています。「尾道方式」は、1994年に尾道市医師会が主体となって、医療と看護・介護連携のソフト部分の充実を盛り込んだ包括的医療ケアシステムの構築を目指すための基本コンセプトを策定し、多職種協働の具体的な仕組みを確立した独自のシステムです。

最大の特徴としては、急性期から回復期への転院時や在宅への移行時など、各ステージにおける「ケアカンファレンス」の実施の徹底が挙げられます。メンバーは、訪問看護師、薬剤師、ケアマネジャー、ヘルパー等多数で構成され、患者や家族が同席することも珍しくありません。

また、カンファレンスの主催は主治医が中心で、既に2004年の時点で94.3%の医師がカンファレンスを主催したとされています。

カンファレンスの開催にあたっては、極力時間的な負担を減らすため、ケアマネジャーが資料を事前に周到に準備し、原則15分間という短時間で集中して終了させることとなっています。

なお、尾道の連携システムを通じて医療と介護の包括的な提供体制整備に寄与した功績が高く評価され、2007年、尾道市医師会が第59回保健文化賞を受賞しています。



【あいサポート運動の取り組み 木村隆彦】

あいサポート運動とは、障がいのある方が困っている時に必要な配慮などを理解して、ちょっとした手助けや配慮を実践することにより、障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）をみなさんと一緒につくっていく運動で平成21年11月に鳥取県で始まりました。

その後、島根県と連携をして全国的に展開している運動です。現在では広島県・長野県・奈良県でも展開されています。全国でのサポーターの人数は22万人で企業団体数は786団体に広がっています。埼玉県でも富士見市・三芳町・和光市が10月より連携協定を締結しあいサポート運動が始まりました。あいサポーターになるためには障がいの主な特性や必要な配慮の内容をまとめたパンフレットを理解し、あいサポートバッジを受け取ることでサポーターになれます。

秩父市における障がい者数は3294人（23年3月現在）で、概ね人口の20人に1人の割合で障がいを抱えています。それらの方々の現状を把握し地域で理解し暮らしやすい社会を作っていく必要があると感じました。現在、第四期秩父市障がい者福祉計画を策定しています。障がい者のサポーター養成事業として是非とも取り入れていきたいと感じました。



【出雲市の認知症ケアの取り組み 福井貴代】

視察2日目、私たちは出雲市の高齢者福祉課を訪問し、認知症対策について話を伺った。

世界一の長寿国となった日本は、長寿であるがために認知症になられる方も増え、認知症予備軍も含めると800万人とも伝えられている。「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」は喫緊の課題であり、秩父市も例外ではない。

出雲市の認知症ケアの取り組みは、介護保険制度の開始以前から「認知症になっても笑顔で暮らせるまちづくり」をキャッチフレーズに展開している。平成26年4月1日現在、高齢化率27.38%で、高齢者数は47,785人、高齢者のみの世帯は5,948世帯とのこと。第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画で「地域包括ケアシステム」の構築を掲げ、認知症支援ネットワークの推進に取り組んでいる。出雲市介護保険運営協議会の中に、認知症高齢者支援強化検討会を設置。メンバーには医師会会長、認知症サポート医、かかりつけ医、島根認知症疾患支援センター、島根県立大学、認知症の人と家族の会、認知症介護指導者など認知症にかかわる関係者や団体の連携が出来ている。認知症理解の普及啓発・早期対応のため、認知症キャラバン・メイト連絡会ではキャラバン・メイトの養成と交流、研修を行っている。現在キャラバン・メイト168人、認知症サポーター数は7,312人。早期発見と早期治療のための「チェックリスト」や「認知症の人へのサポートガイド」「認知症になりゆく経過」等も作成。回想法を用いた認知症予防に取り組んでいる。また認知症ケア向上推進事業として認知症カフェを開設。先進的な取り組みに大変啓発された視察となった。

【鳥取県のあいサポート運動 赤岩 秀文】

「あいサポート運動」創設の地、鳥取県へ赴き県庁職員の方たちに、その取り組みの詳しい内容を伺ってまいりました。この運動の内容は、様々な障がいの特性を知り配慮のありかたを、正しく理解することで、障がいのある方たちと共生していく助けとなる事業です。

個人または企業単位で、あいサポーター養成講座（基本75分）を受講してもらうなど、障がいのある方たちに手助けをする意欲のある方なら誰でも参加できます。あいサポーターは支給されたバッジを着用することで障がいのある方が気軽に助けを求めやすい環境を作ります。

一概に障がいといってももうまれつきの障がい、高齢化や事故、病気等を起因とする後発的な障がいがあります。これは市民のだれもが障がいを持つ可能性があるということです、よってこの事業は高齢化の進む秩父市でも必要となります。また財政面を踏まえても、予算があまりかからず本格的に導入を検討しても良いのではないかと考えます。「あいサポート運動」は、6月定例会において一般質問がされており、大変関心高くお話を伺えました。

最後になりますが、名刺交換の際、職員の方の名刺に点字が打ってありました。「あいサポート運動」創設の地だけあって、細やかな配慮に大変感動した一幕でした。



【障がいを知り、共に生きる「あいサポート運動」に学ぶ 金崎 昌之】

秩父市議会2014年6月定例会に「秩父市のユニバーサルデザイン化に関する請願」が提出され、全会一致で採択された。ユニバーサルデザイン（以下「UD」）とは、障がいを問わず、高齢者・幼児など誰もが安心して生活ができるまちづくりのことを指すが、請願は障がい者用トイレ一つとってみても、オムツ替えのベッドが2歳ぐらいまでの幼児にしか使えないなど、秩父市が推進方針を掲げて取り組むところのUDの問題点を浮き彫りにした。

こうした中、今回の視察で最も関心をもったのは、鳥取県庁で学んだ「あいサポート運動」であった。2009年に鳥取県で創設し、現在では島根県とも連携して取り組むこの運動は、「様々な障がいのある方が困っていることに、必要な配慮を理解し、日常生活でのちょっとした配慮を実践していく」活動で、意欲のある誰もがサポーターになれるというものだ。

この視察で学んだ点を2つ挙げてみたい。1つは、この運動のパンフレットの表紙にも書かれていた「まず、知ることからはじめましょう」ということ。秩父市議会でも、UD化に関する請願採択後に特別支援学校を視察したが、実態をつぶさに「知ること」は「理解すること」の第一歩だ。2つ目は、洋の東西を問わず運動が進んでいるところに共通しているのは、中心となる者の半端ではない本気度だ。この点では活動を広げるためなら「県費を使ってでも秩父へ行く」と言う、担当係長のいる島根県庁も例外ではなかった。

こうして、障がいを知り、理解し、これを広げるといった見事な理論と実践の一致の中で、障がい者のみならず、誰もが安心して暮らせる共生社会が着実な広がりを見せ始めている。

【「あいサポート運動」について 落合 芳樹】

鳥取県健康福祉部障がい福祉課の「あいサポート運動」について行政視察しました。

あいサポート運動とは、誰もが、多様な障害の特性、障がいのある方が困っていること、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮を実践することにより、障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）をみなさんと一緒につくっていく運動で、平成21年11月に鳥取県で始まりました。

あいサポートの名前は、「愛情」の「愛」、私の「I」に共通する「あい」と、支える、応援する意味の「サポート」を組合せ、障がいのある方をやさしく支え、自分の意志で行動することを意味しています。

現在、5県（鳥取県、島根県、広島県、長野県、奈良県）が基本的内容を変えることなく、共有して運動を展開しています。平成26年8月末現在、あいサポーター数は221, 877人、あいサポーター研修は1, 865回行なわれ、あいサポーター企業・団体は786企業（団体）にのぼるそうです。

埼玉県での広がりとしては、和光市が本年の7月30日に研修を実施して、あいサポート運動推進に向けて準備中ということです。また、富士見市と三芳町との連携協定締結に係るキックオフセレモニーを今年の10月16日に開催されるそうです。なお、他県との連携の広がりの方策として、知事自ら、知事会などでトップセールスを行なうとともに、障がい福祉課職員を他県へ派遣してセールスや各種のイベントでPR活動していることだそうです。

【広がる「あいサポート運動」の取り組み 出浦 章恵】

平成21年11月から鳥取県で始まり、島根県、広島県、長野県、奈良県の5県が基本的内容を変えることなく共有して運動を展開している。多様な障がいの特性、困っていること、必要な配慮を理解し、障がいのある方にちょっとした手助けをする「あいサポーター」を養成して共生社会実現を目指す取り組みです。本年10月16日には埼玉県富士見市と三芳町との連携協定締結のキックオフセレモニーが開催され私も平井鳥取県知事の講演を聞いてきました。最近、テレビでも良く取り上げられている平井知事自らこの取り組みを精力的にアピールする姿を見ますが、同様に障がい福祉課の職員の方々も要望があれば何処へでも出向いて行って説明をするという熱心さには頭が下がります。

私は今年夏、友人の川畑富士見市議の紹介で障がい福祉課 社会参加推進室の生田さんと出会い、この運動について度々教えてもらいましたが、今回鳥取県庁への視察で再会をすることができました。今後、障害者差別解消法が平成28年4月施行に向けてまちづくりのひとつとして、あいサポート運動の取り組みを進めていけば、秩父市が誰にとっても住みやすいまちになると考えこの運動の実施を要望してまいります。



【鳥取県におけるあいサポート運動ほか 五野上 茂次】

今回の文教福祉委員会の行政視察は3市（鳥取・島根・広島各県）にまたがり行った。2日目は、島根～広島（尾道）と山陰、山陽を縦断する大変ハードな中で行われた。まずは、あいサポート運動について感想を述べよう、運動の始まりは誰もが地域の中でいきいきと暮らしていく中で、自分が理解されていることが必要で、障害については、内容や配慮等が知られていない又つらい経験をされているという実情がある、それにはまず実情を知るそして多くの人に障害を知ってもらうということがあいサポート運動の狙いであり（共生社会）を地域全体で作り上げる事を目的としている、我が市に於いても更なる愛の手を差しのべる活動として多くの人に実情を知って頂くことが大変大事だと思います。

次に、地域包括ケアについて述べます地域包括ケアシステムは、医療・介護予防・住まい・生活支援の5つのサービスを包括的かつ継続的に提供する仕組みであり「尾道方式」が全国的に有名であり、尾道市医師会が主体となり、医療と看護・介護連携のソフト部分の充実を盛り込んだ包括的医療ケアシステムの構築を目指すため多職種協働の仕組みを確立した独自のシステムです。最大の特徴としては、急性期から回復期への転院時や在宅への移行時など患者の家族を交えての（専門用語）ケアカンファレンスの実施の徹底があげられます。メンバーとしては訪問看護師・薬剤師・ケアマネジャー・ヘルパー等多数で構成され実施されています。